

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4371000565
法人名	社会福祉法人 愛敬会
事業所名	グループホーム 清泉
訪問調査日	平成 20 年 2 月 25 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 24 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

【評価実施概要】

事業所番号	4371000565		
法人名	社会福祉法人 愛敬会		
事業所名	グループホーム清泉		
所在地	菊池市七城町亀尾2484 (電話) 0968-26-9810		
評価機関名	あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3丁目13-12-205		
訪問調査日	平成20年2月25日	評価確定日	3月24日

【情報提供票より】 (20年2月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 27日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	8人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算7.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	10,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000円	

(4) 利用者の概要 (2月7日現在)

利用者人数	9名	男性 名	女性 9人
要介護1	2	要介護2	1
要介護3	5	要介護4	1
要介護5		要支援2	
年齢	平均 87.8歳	最低 79歳	最高 99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	古田医院	加藤歯科医院
---------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

心なごます案内板や手入れの行き届いた芝地に建てられた東屋、心を癒してくれる愛犬の姿は、ホームが心がけている「ホッ」とする温かい雰囲気をかもし出している。木のぬくもりのある明るいホーム内で心をひとつにした経験豊富な職員のケアの下、隣接した施設との交流行事、ホーム専用車でのドライブや、地域行事の参加など、楽しい活動の場が提供されている。医療との連携により、健康管理、栄養管理、残存機能を生かすためのおむつはずしへの取り組みが適切に行われている。このことが入居者、家族への安心につながっている。今後は広い芝地を近隣の子供たちの活動の場に提供することで、地域への還元も視野に入れ、真に地域に密着したサービスの提供を全職員が心がけている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>馴染みの品など持ち込みによる居室の環境作りやホーム専用の車の購入による日常的な外出支援、栄養士アドバイスによる献立作成、緊急時の手当の勉強会の実施など昨年の外部評価を真摯に受けとめ多くの改善が図られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価には全職員が取り組み、まとめ上げたものである。問題点、改善点をグループホーム会議で話し合い、サービスに活かす体制が整備されている。又外部評価の意義を理解し、昨年の結果を真摯に受けとめ、職員共通の課題として検討し、改善していく姿勢、体制が確認出来た。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議も通算5回開催され、行政、民生委員、老人会、地区代表、入居者、家族などの参加の下、有意義な会議であることが会議録より確認できた。参加者からの意見や要望が、サービス改善に活かされ、経過報告もされている。今後も地域との関わりを深めていくことを目標としており、取り組みに期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会の際や必要に応じ電話連絡にて健康状態、金銭管理、職員の異動など報告を行ったり、連絡ノート使用により家族への安心へつなげている。運営推進会議に全家族が交替で参加してもらうことにより意見、要望を出してもらい、運営に反映させたいとしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の保育・幼稚園との交流や、食事改善普及員による料理教室など、少しずつ地域とのつながりが出来つつあるが、避難訓練などにおける消防団、地域住民の協力、連携が望まれる。今後も運営推進会議でも取り上げ、更に地域との関係作りに努めたいとしている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“敬愛の念をもって接し、安心できる生活を支援する”の理念の下、日々のケアが行われている。ホームパンフレットや運営方針には、“地区”“地域住民”との交流が謳われている。	○	これまでの理念に、地域密着型サービスとしての理念を加えられるとなおよいと思われる
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理事長、管理者は常に入居者が「ホッ」とした毎日を過ごせる支援となるよう、理念について話す機会を設けている。又理念は職員と共に、家族、来訪者へも浸透するよう玄関にも掲示し、運営推進会議でも紹介している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育・幼稚園を訪問したり又慰問されたりと交流が出来る。地域の清掃作業はこれまで参加できないこともあったため、今後は入居者と一緒に参加していきたい意向である。	○	法人の広い芝地を、今後は保育・幼稚園・小学校の遠足場所などに提供することにより、入居者とのふれあいや今後の地域の人々の交流につなげたいと意欲的である。実現に期待したい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が取り組み全員でまとめ上げたものである。問題点、改善点をグループホーム会議で話し合い、サービスに活かす体制が整備されている。又外部評価に関しても結果を真摯に受けとめ、職員共通の課題として検討し、改善していく姿勢や体制が確認できる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催される会議は各方面からの参加を得ている。固定されていた家族メンバーを、全員の家族が持ち回りで参加してもらうことにより、会議の周知と理解を深め、多くの意見、要望を頂く機会にしたいとし、家族も快諾を得た事が報告されている。会議で提案された童謡クラブのホームでの歌の披露については、早速相談を持ちかけ翌月より月1回ホームでの披露が実現している。	○	今後は会議に出席されていない家族への報告をすることで、より会議の周知、理解につながると思われる。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者には、夏祭りや敬老会などの行事への参加を依頼し、現状を見てもらい、アドバイスを受けている。又ホーム長が市の包括見守りネットワークの委員として会合に参加している。今後も市、町との連携を深め、サービスの質の向上に取り組みたい意向である。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に生活状況や心身の状態を報告している。金銭管理帳に領収書を添付し、家族に確認してもらっている。健康面では、随時電話で連絡を行い、入居者によっては連絡ノートの活用や、年4回発行のホーム便りにて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族とのコミュニケーションを図り、意見や要望の出しやすい雰囲気作りに努めている。又運営推進会議への家族の参加、家族会の実施、第三者委員の設置など意見を聞く機会を設け、出来ることは運営に反映させる努力を行っている。また入居者との連絡ノートも家族意見の反映につながっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員採用では、“お年寄りに有難うといえる場面作りの出来る人” “気持ちにゆとりがあり、一緒に楽しめる人” を大切に人選している。この1年間、職員の異動、離職がほとんどなく、利用者との馴染みの関係が継続され、一つの家族としての関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、法人内合同研修の充実が図られ、グループホーム会議内での勉強会では、全職員がテーマを決め、発表する担当となることで職員の意識向上、レベルアップにつなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者、管理者は日頃より地域の同業者と交流する機会を持ち、情報交換を行っている。また自主的な職員による他のグループホーム見学も行い、交流を図っている。	○	他のホームとの交流を職員も希望し、意欲的である。また管理者も近隣、他県を問わず、質の向上につながるホーム見学交流の実践に向け意欲的である。今後に期待したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者、家族、担当ケアマネジャーなどに見学してもらい、安心してサービスを利用できるよう支援している。本人や家族の状況によっては、入所して慣れてもらうケースもある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に人生の先輩である入居者を敬い、尊敬の念をもって日々のケアにあたっている。個々の生活歴や、趣味に配慮し、出来ることを見守りながら、各々の役割を支援することに努め、感謝やねぎらいの言葉掛けにより、共に支え合う関係を構築している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、意向をコミュニケーションや家族から聴取し、ケアにつなげている。また担当制を設けることにより、特に希望や意向の把握に努め、今年度より面会時、担当者が不在でも、コミュニケーションが取れるよう連絡帳を使用し、ケアに反映させている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に十分なアセスメントを行い、日々の暮らしについて、入居者や、家族の思いを活かしたプランとしている。家族にも説明し、サイン、押印もある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアカンファレンスでの見直しや、随時見直しを行っている。その際の家族への連絡も確実に行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診や買い物支援など、柔軟に対応している。又併設デイゲストとの交流、クラブ活動、行事参加、大浴場使用など楽しみとなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に応じ、かかりつけ医の受診対応となっている。受診は、基本的に家族対応だが、状況に応じ、柔軟に対応している。医療との連携が密に図られていることが入居者や、家族へ安心を与えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現段階では、家族、かかりつけ医との終末期に向けた話し合いはもたれていないが、ホーム内も高齢化が進む中、家族の希望、職員の意見を聞き、「ターミナルの今後の方針を医師と共に十分に話し合い、一人ひとりにあったものにしていきたい」という意向である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人格の尊重、プライバシーの保護に関しては、法人全体での研修をはじめ、日々のミーティングの中でも、言葉掛けや、目線対応を職員間で確認している。訪問の際の面会用紙記入後は、職員に渡すなど個人の情報に配慮している。毎朝ポータブルトイレを居室から出して、別保管することは、清潔保持と共に、自尊心に配慮した支援となっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の個々のペースでの過ごし方を大切にして支援している。起床や入浴時間も、入居者の状況に応じ、柔軟な対応をとっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好み、旬の食材を取り入れ、併設施設の栄養士のアドバイスを受けた献立表を作成している。野菜の下ごしらえ、配膳など入居者の力量により、職員と共に参加されている。訪問当日も、多くの食材を使用したメニューを入居者各々のペースで職員と共に和やかに楽しんでいた。またドライブ先での外食支援や、魚屋さんに来訪を依頼して、ホームで‘にぎり寿司パーティー’を行うなど楽しい食事支援が行われている。	○	入居者の食事中的エプロン使用については、十分な配慮を検討して頂きたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴や毎日の入浴など、入居者の希望を尊重し支援している。浴槽取り手のデザインや脱衣所の暖房にも十分な安全配慮がされている。また温泉入浴剤を使用したり、ゆずを入れた季節風呂や、併設デイサービスの大浴場使用、近隣温泉施設での入浴などいろいろな入浴支援が行われている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各々の生活歴や能力に応じ、モップや雑巾掛け、洗濯物たたみや食事の準備（野菜切りやテーブル拭き）など出来ることを生活の中に取り入れて支援している。ホーム独自の行事と併せ、併設特養ホーム、デイサービスとの合同行事（尺八演奏、フラダンス鑑賞など）を楽しんでいる様子がホーム便りよりうかがえた。またホームに愛犬が加わり、餌をあげたり、声をかけたりする嬉しそうな入居者の姿を見ることが出来た。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じ取ることが出来るよう、入居者の体調や天候に配慮しながら、施設周辺の散歩や東屋でのお茶やお食事、又本年度はホーム専用車が購入されたことにより、日常的な買い物をはじめ、季節ごとの花見やドライブ、町内一周駅伝応援など、町の催し物参加の機会が増え、楽しい外出支援となっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることでの心理的な弊害について認識し、玄関の施錠はせず、センサーと優しい音色の鈴の対応としている。徘徊が見られる入居者にも、寄り添いや見守りで、本人の行動を拘束しない支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練や、放水訓練が実施されている。今年度台風被害に備え、ガラス戸にシャッター雨戸を取り付ける工事も行われた。職員緊急連絡訓練では、時間がかかりすぎた反省から、早急に連絡網の作り替えを行った。避難訓練の際、地域の人々の協力を得るまでは至っていないが、今後は地域にホームの内情を理解してもらい、協力を得られる働きかけをしていきたい意向である。	○	今後は運営推進会議なども利用して、消防団、地域の人々の協力を得ての訓練実施が大いに期待される。また訓練の記録や書類は、併設施設とは別に、ホームにも保管しておくことが望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や必要な入居者は水分摂取量もチェック表に記載している。併設特養ホームの栄養士に献立作成のアドバイスやカロリー計算を依頼し、健康管理を行っている。このことは家族の安心につながっているのをアンケートからも確認できた。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りや廊下、テーブル、トイレなどに季節の花や植物が活けられ、リビングに飾られた共同製作の季節のカレンダーが和やかな雰囲気である。共有空間は、採光も良く、ソファでゆっくり寛ぎ、テレビを見たり、新聞を読んだり、食堂からも出入りできるベランダでは、日なたぼっこやお茶を楽しむスペースも設けられている。ホーム内は適宜に空気の入れ換えが行われ、アロマ加湿器の設置や床などの掃除を含め、清潔保持に配慮されていることも居心地の良さにつながっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>継続して、家族へ使い慣れた品の持ち込みを依頼されたことにより、馴染みのテレビ、家具、家族の写真や手紙、日用品、趣味の手編み道具、家族による手作りカレンダーなどが置かれている。またベッドに馴染めない方には、畳での対応など、入居者本人が自宅に近い安心して暮らせる環境に努力している。</p>		

※  は、重点項目。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 清泉
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県菊池市七城町亀尾2484
記入者名 (管理者)	古田 由美子
記入日	平成 20年 2月 7日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念と共に私たちの目指す介護を明確に示し、これまでの生活をできるだけ維持できるような支援を目指している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で作りあげた理念を玄関内に掲示し、日頃より理念を念頭に置いた行動を職員全員で心がけている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念や目指す介護を玄関内に掲示することで、訪問者に理解していただけるようにし、また運営推進会議でも紹介している。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	犬の散歩中、近隣住民と挨拶を交わしたり、時には会話をすることもあり、野菜の差し入れもある。ボランティアで料理教室も開催し交流している。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃作業などには極力参加するように努めているが、出られないこともある。地域の幼稚園へ出かけていくことは、お年寄りにとっても、子供たちにとっても、とてもよい取り組みだった。	○ お年寄りと一緒に、地域の作業などに参加して行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	“認知症への理解”と題した講演会を、職員、地域の皆さんと共に行い、共に学ぶ機会を持った。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員全員で自己評価の実施に取り組んだ。問題点、改善する点をグループホーム会議で話し合った。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、活動状況報告し、利用者の家族にも交代で出席していただき、意見や要望など聞いてサービスに活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の行事等には、町の担当者の方々にも参加していただき、現状をみていただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している家族がおられ、精神科医の診察等に立ち合った。また、全体職員会議の中での学習会や資料等で学ぶ機会もあった。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体職員会議で虐待について学習し、日常の業務の中でも職員同士、話し合い虐待防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書と重要事項説明書を口頭と文書で十分説明を行い、理解や納得をされた上で同意を得るように努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりコミュニケーションを図り、意見等が言いやすいようにしている。又、法人として第三者委員を設け、外部の方への相談がしやすいようにしているが、活用されたケースはない。	○ 利用者の方は、なかなか意見をおっしゃらないので、日々の生活の中で職員が不満や苦情を見逃さないような感性を高めていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族や親戚、友人などの面会も多く、その都度、暮らしぶりや心身の状態、金銭管理(おこづかい帳)など、報告を行っている。又、入居者によっては連絡ノートを活用している。グループホーム便りを年間4回発行し、報告等にも活用している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・日頃からのコミュニケーション ・運営推進会議へのご家族の参加 ・家族会の実施 ・第三者委員の設置 などで意見を聞く機会を設け、できることは運営に反映している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がグループホーム会議に出席して、職員の意見や提案を聞く機会を定期的に設けている。又、その中で必要なことは運営者へ報告し、運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要時に職員の数を増やしたり、ゆとりのある対応ができるように調整に努めている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年間は職員の異動、離職がほとんどなく、利用者との馴染みの関係が築けた。グループホームに向けた職員の配置を心がけ、それぞれがやりたいことを企画、実行し、やりがいを感じられる取り組みを行った。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・外部研修 ・法人内での合同研修やグループホーム会議内での勉強会などを実施 ・認知症実践者研修は、毎年一人ずつ受講している</p>	○ 今後も全員が順に認知症実践者研修を受講し、さらに実践者リーダー研修にも参加させたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者、管理者は日頃より、地域の同業者との交流を行って、情報の交換を行っている。又、自主的な職員による近隣のグループホーム見学を行い、自分たちのサービスの見直しに役立てたい。</p>	○ 他ホームとの交流を計画的に行って、質の向上に生かしたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>不規則な勤務の為、できるだけ希望の休みがとれるように配慮している。</p>	○ 休憩時間や場所の確保は課題です。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>今年度より、目標管理制度を導入し、それぞれが目標を掲げて達成へ向けて努力している。又、定期的にホーム長が面接をし、達成への支援をしている。</p>	○ 今後も続けていきたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>傾聴する機会、場面づくりを努力している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談や見学、申し込みがあった時には、家族の希望や状況を把握し、ゆっくり傾聴するよう努力している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や申し込み、時には面談及び関係者からの情報収集を行い、当ホームでの支援が適切であるかどうかよく検討して、入居いただいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人、家族、ケアマネジャー等に見学してもらっている。又、入居後も家族との連携を大切にし、面会に頻繁に来ていただいたり、電話連絡したり、外出、外泊をしていたり、特にご家族の協力をお願いしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事、調理、掃除など日常生活を共に過ごし、共通の話題で関係作りをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に出来るだけ詳細に本人の様子を報告し、家族にも相談することで一緒に支えるよう心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームでの行事を一緒に楽しんでいただいたり、外出、外泊、病院受診、又、自室の大掃除などはご家族にご協力いただき、できるだけ家族のつながりを密にさせていただくよう、支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの行きつけの美容院や、毎週自宅に帰宅し仏壇参りや花の水替えをされる方もいる。昔からの友人の面会もある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う利用者同士の会話ができる席の工夫や、洗濯物たたみや野菜の皮むき、雑巾縫いなど利用者の得意なことを発揮できるような場面作りに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、その家族が立ち寄ってくださったり、その後の状況を尋ねたり、併設施設に移られた方に対しては、入居者と一緒に面会に出かけたり関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言葉や表情などで、その方の感情を把握している。又、担当制を用い、特に希望や意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式により、その方をよりよく知るために、家族に協力を求め、情報収集を行い、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の生活のリズムを大切にしている。毎日の暮らしの中から小さな変化、喜びなどを見いだし、出来ることを見つけようと努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	プランの作成にあたっては、本人や家族の意向を聞き、担当職員に相談している。月に1度のグループホーム会議、家族を混ぜてのケアカンファレンスで話し合いを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを行い状況の変化に応じて見直しをし、現状に合った計画を作成している。変更の際には、家族の連絡も怠らない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに日々の様子や気づきを記録することで各職員が情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況や要望に応じてデイゲストとの交流や併設施設のクラブ活動や行事に参加したり、通院の支援、同行など柔軟な対応に努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れを積極的に行い、コーラスグループの方々に月1回来ていただき、入居者と共に歌ったり、料理教室で一緒に団子作りなどを行った。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	デイサービスの参加や、特別養護老人ホームのクラブ活動や行事への参加など、他のサービスの活用を支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	全体的なことに関しては、運営推進会議で助言等いただいているが、ケアマネジメント等に関する協働はしていない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は基本的に家族だが、その時の状況に応じて適切な対応を行い、お互いに情報の共有を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人全体での職員研修を行っており、プライバシーに配慮した言葉かけや対応については、常日頃よりスタッフ間でも注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	わかり易い言葉でゆっくりと話しかけている。自己決定ができるような場面作りの支援を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人の生活のペースを大切にし、起床の時間や入浴の時間は入居者の気分や状況に応じて柔軟な対応をしている。希望に応じて散歩やドライブなどの支援も行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	カットは出張の有料カットや行きつけの美容院で、パーマ、ヘアカラーをして、おしゃれを楽しんでおられる。又、必要に応じて化粧の支援も行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ(野菜の皮むき、ゴマすりなど)、おやつ作り、配膳、テーブル拭き、茶碗洗いや拭いたり、職員と一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	それぞれの嗜好(甘い物、日本茶、おかき類)に合わせ提供している。お誕生日には、本人が好む料理、望む物を提供し、喜んでいただいている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用し、時間で誘導を行っている。紙オムツ使用を減らす取り組みを行い、本人の残存機能を生かせるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の要望を取り入れ、夜間入浴や毎日入浴など本人の希望を尊重し実施している。時には、気の合う入所者同士の入浴や近隣の温泉施設での入浴も支援を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食事時に居室の暖房を入れ、食後入室された時快適に過ごして頂けるよう配慮している。居室だけでなく昼の間に休息されることも多い。本人や家族からの希望でベッドや家具の位置変更も行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の能力に応じた役割がある。掃除(モップかけ、雑巾がけ)、洗濯物たたみ、茶碗洗い、テーブル拭きなど出来ることを生活の中にとり入れている。又、ドライブや、りんご、ブドウ狩りなど季節に応じた楽しみができるよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している人が5人おられる。りんご狩りに行った時は、家族のおみやげを所持金で支払ったり、必要に応じて使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	東屋でのお茶や食事、施設周辺の散歩、季節毎に花見やドライブ、町の催し物の見学に出かける支援を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	兄弟(姉妹)の家や墓参り、家族旅行、外食など出かけられている。町の催し物の見学やドライブで気分転換の支援を行った。		

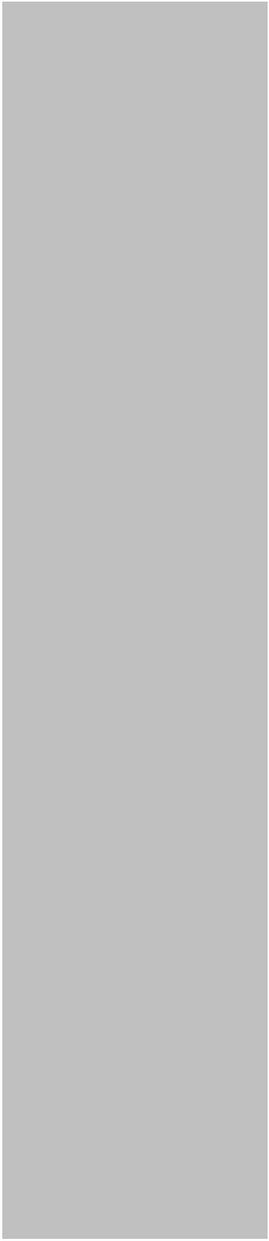
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたり、暑中見舞い、クリスマスカード、年賀状を投函したり、家族との交流の支援を心がけている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気楽に面会していただけるよう、面会時間を定めず、訪問時は笑顔で対応し、お茶の接待を行っている。お帰りになる際は、又いらして下さいよう声をかけている。	
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する職員研修を行い、法人全体で身体拘束をしないケアを実践している。	
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関は施錠しない。玄関にはセンサーを設置し、人の出入りを知らせるシステムがある。外へ出て行かれたら職員が一緒に出かけ、動きを制限しないよう配慮している。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々のプライバシーに配慮しながら、昼夜とわず所在を把握し、理解可能な方には、ナースコール対応を行っている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁やハサミの使用後は元の場所に戻している。入居者が使用される時には、職員の目の届く所で使って頂き、安全面に配慮している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書、ヒヤリハットの活用、即、話し合い、再発防止に努め、月1回のグループホーム会議においても、再確認防止案の話し合いを行っている。火災防止の為、オール電化対応し、定期的に非難訓練を実施している。	

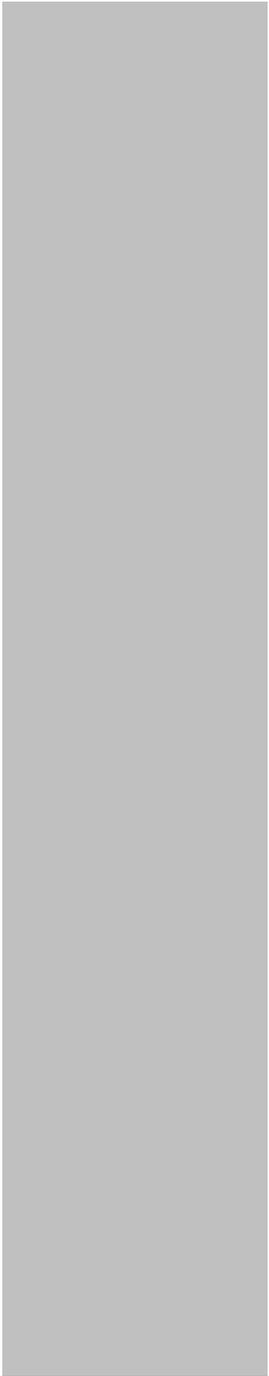
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故に対して落ち着いて対応ができるよう、OJTを実施している。グループホーム会議でも勉強会を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に併設の特別養護老人ホームの協力を得ながら、夜間想定等の避難訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアカンファレンスや面会時に起こり得るリスクを話し、その対応策を説明している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックや食事の摂取量、尿量、顔色、表情などに気を配り、変化があれば主治医に報告、指示を仰いでいる。又、家族にも連絡を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時には、申し送りを徹底している。副作用については薬局との連携により一覧表で確認、内容把握に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	牛乳やプルーン、食物繊維を多く含む食材を提供し、水分補給に努めている。散歩や体操等、取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアは、怠らない。特に義歯の磨き残しは介助している。歯科受診の必要な方は家族の協力のもと通院している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量のチェックや献立のカロリー計算など、全体を通して過不足がないか気を付けている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルに沿って実践している。風邪の時には、マスク着用、手洗い、うがいなどの対応をし、十分な睡眠と栄養に気を付けている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や必要物品の漂白、消毒、冷蔵庫内の清掃も定期的に行い、野菜、魚は直接業者より配達を依頼している。	
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りには、花を植えたり、玄関内外にベンチ、椅子を置き、談話できるスペースを確保している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりが良い為、カーテンの開閉をこまめに行い、遮光に配慮している。また、トイレや廊下に季節の花を飾っている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室の座椅子で休息される方や居間のソファで過ごす方、日向ぼっこしながら新聞を読まれる方、思い思いにくつろげる居場所を提供している。	

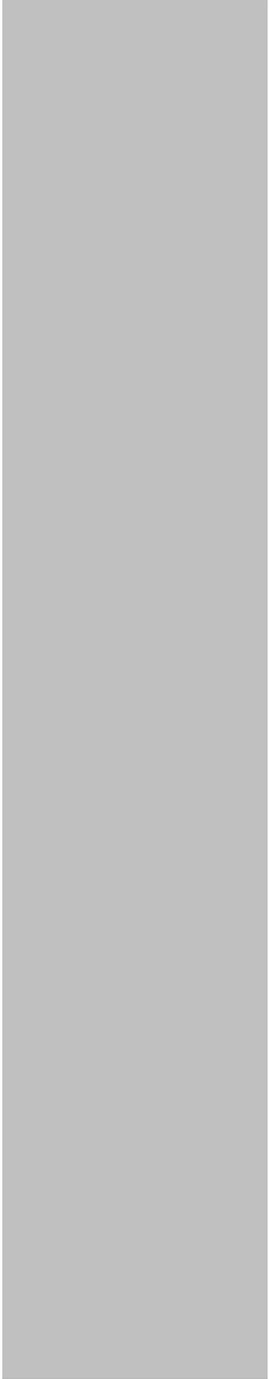
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具やテレビなどを置き、家族の写真や手紙、お孫さんからのプレゼントなど飾り、自宅に近い住環境作りに心がけている。ベッドに馴染みのない方には畳での対応を行っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夏は冷やしすぎに注意し、冬は乾燥に注意し加湿器を使用している。清掃時は空気の入替えにも努めている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関よりバリアフリーになっており、トイレや浴室は車椅子でも十分なスペースを確保している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の戸に顔写真を貼り、ご自分の部屋とわかりやすい工夫を行い、トイレの場所もわかりやすいように表示をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関、東屋、ベランダに長椅子を設置し、お茶を飲んだり、景色を眺めたり、休憩に使ったりと楽しむ場を設けている。また、ベランダで犬を飼い、動物とのふれあいも楽しまれている。		

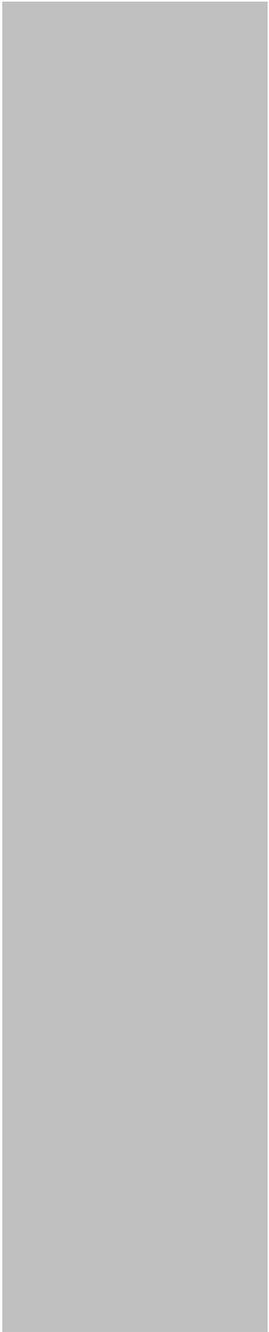


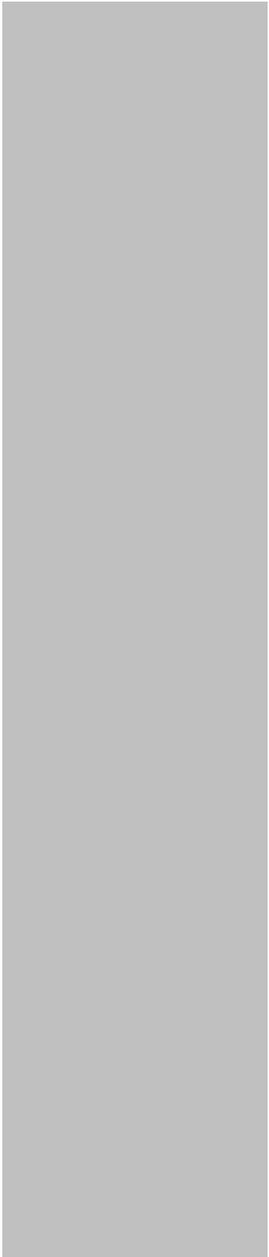


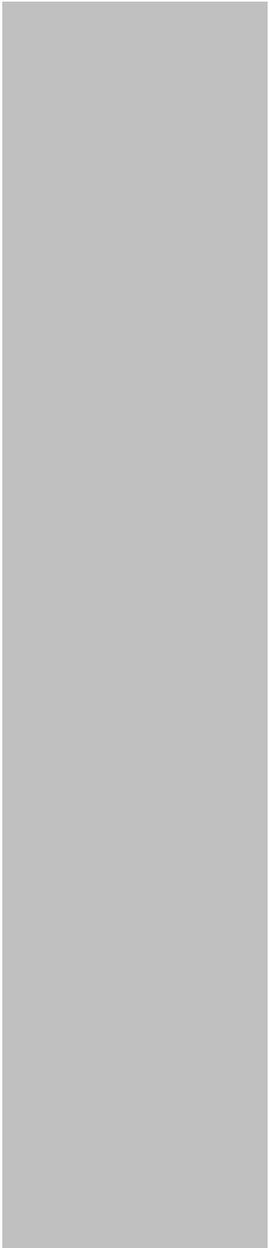


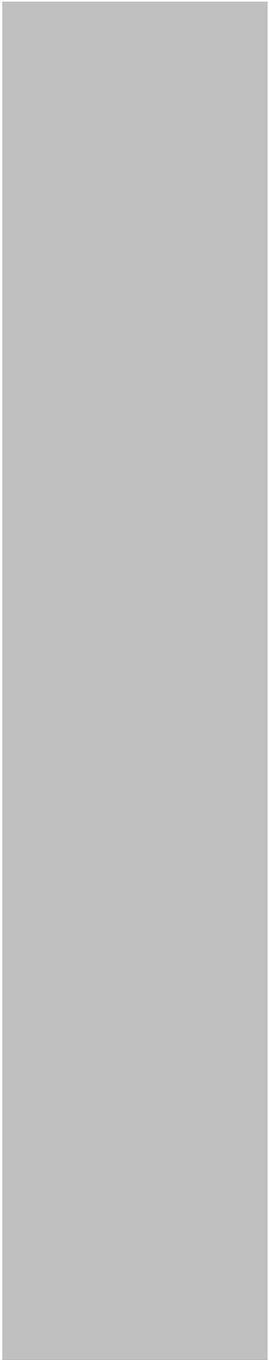


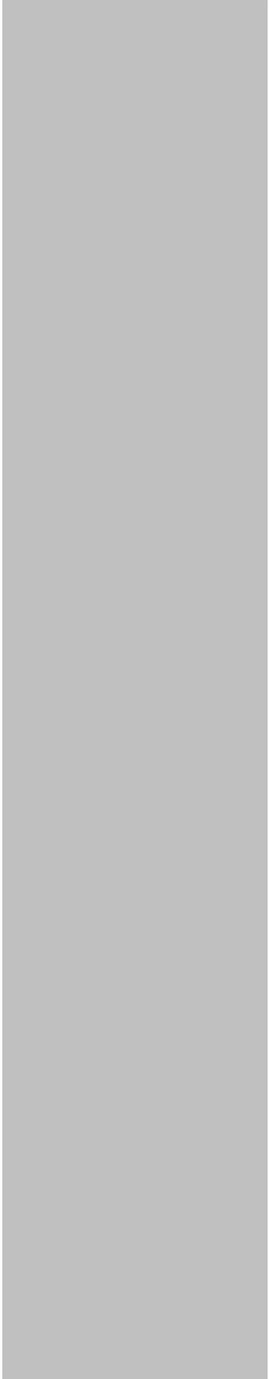




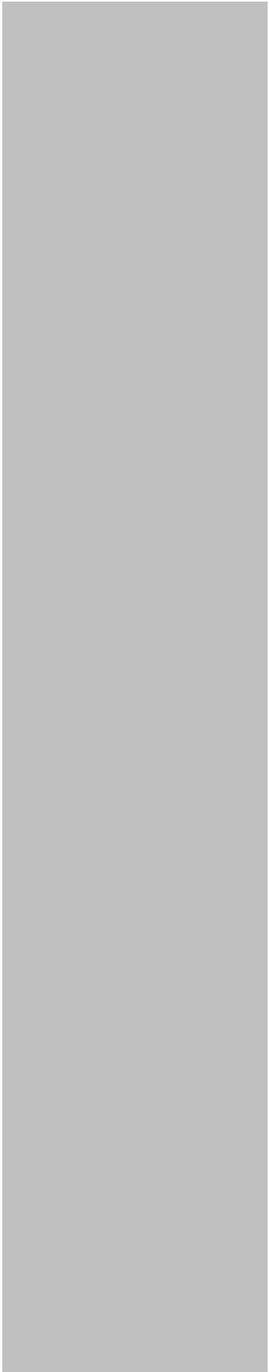


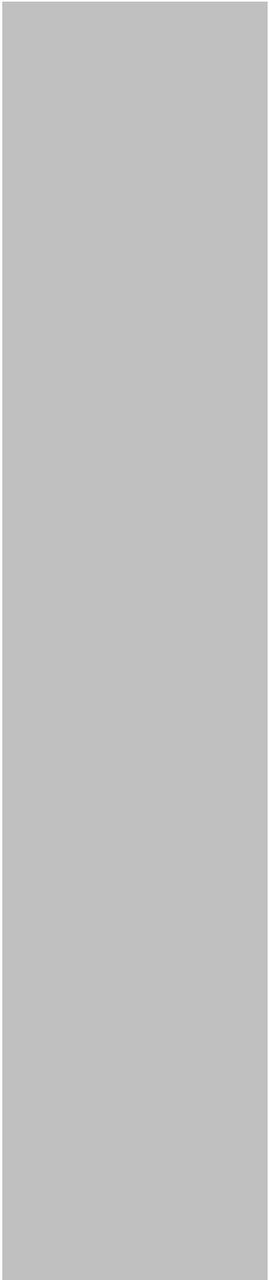














V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設は、自然豊かな環境に恵まれた中にあり、便利とは言えないが利用者の方々が生まれ育った環境に類似していることで安心して生活していただいています。当施設では、利用者の残存機能を生かす為、おむつはずしに取り組んでいます。排泄チェック表の利用やその方の排泄感覚を大事にした排泄誘導を行っています。毎日の食事は、利用者の嗜好品に合わせた調理で提供し、利用者のお誕生日は、特別な日として誕生日のその日にご希望のメニューで提供し、年に一回ですが、喜んでいただいています。